



海子大意抄
本 4365

本 2
5631



門ホ2
流563
卷

冊 志
號 幸 和
函 工



倭字大意抄

倭字に字里あるゆほよ



古に倭字づひのりき字ありて古事記日本紀万葉集
など其をいひて大なり天曆はけりあつた書よんえ
たるを皆一格をみづれたる事付くはよはいりるゆほよ
て志うはぞといひ侍りに古に伊為於乎衣惠などの音と
あへたのげうよふち侍りしよてゆほよをいひて
字音より記しあるそのふれは乱きたる事無かりしを侍
りけはそ後の世れめく伊為於乎衣惠などの音は唱へ
ふちをうんもの侍りしよは古に人たのりるよの文字
れよのこよてこれをかきふる事れ侍るべきたれよをゆほよ
るよのふれは先一つ二行と申す日本紀影宗紀は顯宗の

礼を以て類に付らん、又本居言をハ大筭小筭の義なりん、
といひ付る事、又意祁都表祁都の祁都ハ地名とす、
長いに付る事、これに同じ地名を大と小とす、
瀬小泊瀬大岐蘇小岐蘇など、
おととおもるるや、
おととおもるるや、
おととおもるるや、

大を略して、於いといひ付る事、例多き、
に阿婆於波 和名抄ハ祖母於波など、
又乎小の義なる事、
母乎波、和名抄ハ伯叔母乎波、
伯叔母、
此書おはく、
おととおもるるや、

べし、
阿父と於地、
別義の詞、
に乱れたる事、
恵れ、
礼、
沖、
を、

正濫抄並要略古言様、
る、
古書此、

此字書につき考ふる時、よく叶ひたり、吾み、その古人の
の漢文字をば使ひたり、事、金、唐より承たる、それ、何れ、
音義皆、唐人、此例より、事、傳、明、などの、世、出、る、字
書、唐人の例、た、び、て、わ、古、に、合、は、せる、事、を、付、ふ、こ、

此字音の偽、な、れる、事、古、書、も、の、字、を、偽、字、格、に、載、て
付、る、事、近、世、韻、鏡、の、學、校、に、お、り、て、お、り、人の、書、と、
い、は、れ、る、異、説、と、も、付、れ、ど、わ、が、そ、の、ど、古、書、此、例、を、考、へ
ざる、類、の、多、う、付、ふ、

古書につきて偽字の例を考ふるゆゑなり

古此偽字の例を考ふるに、真字より書たる書によりて考へ
る事なり、い、う、と、い、は、れる、に、天、曆、以、上、の、偽、字、此、例、に、
世、に、記、せ、る、書、も、平、偽、字、と、書、る、書、は、後、の、世、に、人、の、
る、ま、に、い、は、れ、る、事、な、る、もの、は、偽、字、の、證、と、取、ら、る、事、

後の世、行阿の偽字、
てより、平、偽、字、と、い、は、れる、事、な、る、書、を、
う、の、改、め、付、れ、る、事、古、に、
此、林、部、の、下、一、卷、に、
し、に、
之、集、の、自、筆、に、
模、本、に、
そ、の、人、に、
そ、の、平、偽、字、に、
澄、と、な、り、
せ、り、

せり、生、る、書、に、
栗、ハ、古、事、記

字此例またぐる事なるれども偽字の終として偽字
成之め偽事なり、

後此世の字はけいひうけの詞叶はごるが多し四位志為
此偽字にて推ハ志比の偽字れと四位を推よしよせ木居
去古為此偽字よと、志ハ古此の偽字なるを、木居と志よし
ひよせ折ハ千里の偽字よと、織ハ於里の偽字なるを、紅糸
を錦よしとなりて、枝成折を織よしよせ侍る方れど、此
皆古乃例よありん又知を言にいひうたる方なとも侍る
とんハ夕と言ハ通リていへき辨よし侍るを、いへうの
方よは、かりそめよしいひうたる詞よと、偽字此例よ叶はる
る侍るせらき、

又正しくも詞ハ古書よ證なるれど、傍此例をとりて偽字を
言ひる事よ侍りたり、前日此事、成乎止津比といふ事、万

葉に乎登都日とあり、此は、津比乎止津比といふ例れど、前年の事を
乎止津比といふ、津比助乎止津比といふ、古書に見る侍るねど、乎登都日
此乎登と、全く同語と見ゆ、此ハ、此を乎止津比と云ふ事、侍る
侍る、乎止津比と、乎知津日、津比助乎止津比、乎知津比、乎知津比、
方ととりて乎知といふ事ハ、遠近を乎知古知などいふ乎知より、止
と知といふ通ハ詞なり、此ハ、此を乎止津比と云ふ事、侍る、
いふ詞あるが、おのづから、さきを、あはれ、
遠きことと、さきを、あはれ、又物語などいふ、美志呂久、乎知ハ、
ハ、彼ハ、物と、さき多志呂久、
といふ詞、侍る、此志呂久、此志を、ハ、皆濁して唱へたる、
む、いふ、
いふ、志呂久、
万志と、いふ、
いふ、志呂久、
九志呂久、いふ、
いふ、志呂久、
呂久、いふ、
いふ、志呂久、
と、事、いふ、
いふ、志呂久、

花山一條の清時などより上つた家の家記などもの中にいふまゝ
きたりしは詞の倭字に誤りあるべき事たたくはれ
ど僕はこの家記の類れ書を多く見たりしにね、
しうぶと家記とを度々よむらん人おこし
をつけたりき事なるん

五十音によりて倭字れ例を考ふるなり

五十音といふその、如く悉量れ奥子赤とより出来たりもれ
はゆりて、其用は事いと妙なるそのはゆりしれをわ
國の詞、或は、うゝ文子の音を、し、ゆゝむべき事多くゆり
と古書に倭字の係、或、五十音を、考へゆり、阿伊字
衣於の行より通へる詞、息と、於、伊、伊、地、名、乃
愛宕と、於、多岐と、阿、大、古、と、伎と古と、加、伎、久、計、古の行、此、通、音、榎津と、衣、奈、津、と
も、伊、奈、津、と、ゆり、也、伊、由、衣、與、此、行、より、通、へる、詞、と、老、と、於、以

と、毛、於、由、と、も、於、與、と、も、老と於と、一、事、ハ、合、集、解、ニ、老、繫、此、事、と、於、加、介、と、り、萌と、毛、衣、と、も、
由、と、も、毛、伊、と、も、萌と毛伊と、一、事、ハ、合、集、解、ニ、國、此、名、の、壹、岐、と、伊、伎、と、も、由、伎
と、い、地、名、の、愛、市、と、阿、由、知、と、も、阿、伊、知、と、も、ゆり、和、為、宇、惠、乎、此、行
より、通、へる、詞、と、撓、を、多、和、と、も、止、乎、と、も、多と止と、多、知、豆、婦、女、を、天、止、此、行、の、通、音、
多、和、也、米、と、も、多、乎、也、米、と、も、戰、粟、と、和、奈、と、久、と、も、乎、乃、と、久、と、
も、奈と乃と、ハ、奈、仁、奴、祿、乃、此、行、の、通、音、ナリ、聲、と、古、惠、と、も、古、和、と、も、こわづらひ、こわい、居、を、こわ、が、の、な、ど、い、ち、り、
乎、里、と、も、為、と、も、為、ハ、乎、里、入、反、ナリ、白、朮、と、乎、計、良、と、も、宇、計、良、と、も、談、と、乎
古、豆、留、と、も、和、可、豆、留、と、も、ゆり、か、る、類、類、あ、り、ゆり、し、る、べ、
古、語、と、い、は、れ、た、と、も、五十音の通音あるが、多し、又、波、は、不、閉
保、の、行、より、し、る、詞、ゆり、添、を、曾、布、と、も、曾、比、と、も、曾、閉、と、も、
曾、波、留、と、も、思、残、於、毛、布、と、も、於、毛、比、と、も、於、毛、波、留、と、も、向、残、
止、布、と、も、止、比、と、も、止、閉、と、も、止、波、留、と、も、代、を、可、波、留、と、も、可、閉、氏
と、も、可、布、と、も、い、ふ、類、類、ゆり、此、波、は、不、閉、保、の、行、より、し、る、

此法と云ふ二つ好ん傳りける言ふに此百年あまりにむろ羅波
の沙門契沖といひ傳ふべしめて考へしそする事より古書に
西の記述あるをとりて、其例を定め傳ふよなん又とといふて
此に亦人などか用ひる傳ふる法よそ、其行阿が傳ふ字は
と世といひ傳ふよなん此行阿が傳ふ字つとひとして其よ一卷傳ふる
了れよみ京極の黄門が其れ拾遺愚草の清書を大炊助親行
よあはしとていひ傳ふる時、親り於乎衣惠遍伊為法など
れ唱へ傳ふとていひて誤やくわまきとていひて考へ
志して彼よ見せまゐるせとれをとりて考へしとていひ
めたまひて愚草に於て定めらるるに於てせありとて、行阿が親り
が孫なりとれ、親りが考へおくるそのく、其家よ傳りしとて
さうに書ひらめ傳りぬとていひ、其れに全く親りが考へ定め
らるる事よ、其傳れど、黄門の其れよとていひ、さういふ傳ひ

は、事なるべしとて、黄門の其れ傳ふとていひ、其よいひ傳
なり、今行阿が其れをとりて考へしとていひ、其れに、傳
字よ四書五經などいふ事、其れあるに、なごうて、さごあう、其
のとていひ、桶とていひ、桶といふ、其の傳ふ字、小桶といふ、其
字の傳ふ字、重をとり、といふ、其の傳ふ字、おそみ、といふ、其
れ傳ふ字、なごう、唱へ、よとていひ、其れ、そのあり、は、其れ、い
なごう、より、ありて、は、い、とていひ、其れ、其れ、傳ふ、
又、い、ま、い、日、不、紀、万、葉、など、其れ、引、く、る、も、傳、れ、ど、其、れ、
よ、く、叶、り、と、そ、い、ん、え、ず、又、一、書、の、う、ち、に、て、が、れ、と、い、れ、と
あ、い、う、ひ、き、く、る、事、も、あり、と、い、ふ、と、其、れ、き、い、う、なる、
ら、傳、る、ん、む、ろ、南、朝、れ、明、朝、法、沙、後、宋、、世、親、、字、よ、用、ら、る、傳、字、
は、い、と、い、ふ、事、を、破、り、て、わ、が、國、の、詞、を、わ、く、の、四、た、ま、よ、あ、ら、ひ
て、さ、る、せん、事、は、と、わり、な、う、と、て、い、ふ、誤、な、る、よ、う、と、い、ふ、源、抄

の跋よりりく志して、倭字は、いひくも、ふまうに、まき
それなりといはれり、こいといふなり、古の倭字の
定りある事、よまきま、なり、一、右、八、思、之、侍、れ、と、四、行、に、よ、る
事、を、破、ら、れ、い、ふ、よ、ま、き、よ、も、侍、り、せ、ら、ん、ま、さ、い、い、と、行、何、が
倭、字、は、い、い、と、い、ふ、その、も、す、で、い、く、百、と、せ、あ、ま、よ、つ、い、た、れ
と、る、わざ、な、れ、お、な、に、あ、り、て、一、の、は、よ、こ、を、侍、る、た、れ、お、れ、は、
其、の、ま、ん、な、ど、の、を、師、侍、れ、説、よ、ま、む、つ、む、事、を、そ、が、お、り、又、八、古
と、お、り、み、て、可、き、筋、は、説、り、ん、の、ん、も、な、く、て、い、は、つ、た、く、よ、み
い、ん、ま、を、お、り、ろ、ち、に、い、の、よ、ま、は、え、ん、汁、れ、ま、は、い、た、ら、ん、い、
於、此、は、よ、り、て、あ、ん、ん、ま、さ、を、侍、り、ぬ、べ、い、と、古、の、詞、の、本、を、考、へ、て、
い、う、へ、の、書、を、よ、ま、ん、ん、か、お、り、古、の、例、あ、る、倭、字、を、よ、く、知、る
盡、き、事、に、ぞ、侍、り、け、い、倭、字、を、誤、る、時、ハ、詞、の、ま、ま、異、り、た、る、
もの、よ、て、侍、れ、は、倭、字、い、と、ら、く、て、ハ、詞、を、明、ら、む、事、お、ま、り、

詞の義が、い、で、古の書を、バ、誤、り、侍、る、べき、今、その、あ、り、
と、一、つ、二、つ、い、は、る、ん、字、志、ハ、愛、也、食、也、於、志、ハ、思、也、押、也、乎、伎
ハ、招、也、菽、也、於、伎、ハ、息、之、起、也、宇、閉、ハ、上、也、釜、也、宇、惠、ハ、殖、也、饑、也、波
閉、ハ、延、也、蠅、也、波、衣、ハ、生、之、艷、也、か、ら、い、い、教、へ、は、く、く、い、これ
と、い、い、い、乱、し、て、ら、ん、ん、い、い、で、ハ、詞、の、義、を、誤、り、侍、ら、ば、ん、倭
字、此、例、を、考、へ、可、し、て、よ、く、習、熟、し、り、ま、に、あ、ら、ば、古、書、を、よ、む
と思、ひ、ま、す、ハ、事、多、く、侍、り、か、れ、ハ、書、よ、れ、ぞ、こ、て、ハ、後、の、ま、り、なる
倭、字、を、必、於、ま、き、り、よ、ぞ、侍、る、如、字、向、の、道、ハ、公、な、る、その、よ、て、
私、の、これ、に、は、い、ま、き、も、れ、い、侍、ら、ね、ば、い、い、ひ、う、れ、よ、ま、ん、人の
定、め、お、れ、る、事、な、り、と、も、誤、ま、す、ハ、改、め、侍、り、は、べ、い、又、ち、ま、き
思、ハ、思、お、れ、る、人の、い、い、で、る、事、ハ、い、い、わ、り、い、い、い、ら、ん
事、ハ、す、て、侍、ら、ば、い、く、や、あ、ら、が、ち、に、わ、が、好、む、こ、よ、引、れ、て、誤、り、
志、り、て、も、於、こ、す、と、い、は、た、ら、い、の、人、を、侍、ら、る、い、う、そ、て、ら、る、わざ

しや傳らばし

古れ偽字づいを考いで、權少僧初成後よりなまねり
古れ偽字づいの事ハ、契沖より無一なり傳れど、本を考へ傳れど、
そやと文和の法權少僧都成後といへる法沙のそとめて考へいへる
事にく、契沖ハ、説し不づき、事にぞ傳りけ、生成後、乃桑
集れ跋し、抑於和字音義、從京極黃門之以降、尋八雲之輩、
高卑伺、其趣者歟、仍天下木底守彼式、而異之族一人、而無之、依之人、
似背萬葉古今等之字義我者也、僕又專彼式、而用、來年久、但特地於
萬葉集、至于書加和字、漢字右、而聊引、散愚性之僻案、偏任、當集之音
義、所令點之也、是且非自由、且非無、所詮、其故者、依當世之音義、書
用、其和字、則違、萬葉集義理之事有之、所謂當集者、遠近之遠字
之假名者、登保、登書之、草木枝條之撓者、登乎、登書之、當世遠近之
遠字和音者、登乎、登書之、然者、用書此和音者、所可令集之字語相

違也、又書字惠者、殖也、書字邊者、上也、此外此類、雖有之、恐敏系、而注
別紙、とあり、されば古の偽字づいの事、にんつき、うら、以成後
こそ始ふれ、この人、い、な、り、人、よ、り、有、け、ん、り、き、こ、と、は、ま、れ
傳らば、そ別紙に注すといへる、そのは、が、好、く、守、古、の、偽、字、找
集、あ、か、ら、も、れ、は、傳、る、べ、し、その、そ、と、め、を、た、ら、は、い、か、さ、き、
業、な、ら、と、そ、名、の、か、ら、れ、て、人、の、知、り、傳、ら、ぬ、こ、う、と、し、た、れ、
元禄享保、れ、は、より、此、み、あ、の、字、に、い、う、人、を、考、て、後、の
世、の、誤、を、訂、し、な、ら、う、と、し、ま、り、傳、り、て、せ、す、ら、に、こ、う、ら
ふ、ち、む、る、人、く、す、き、ぐ、い、は、傳、ら、う、で、來、傳、り、ぬ、さ、る、ハ、そ、ん、
れ、と、き、い、へ、る、こ、と、が、そ、げ、り、も、よ、り、訂、正、し、て、よ、う、い、ひ、は、ら
り、と、お、ぼ、え、傳、る、う、も、た、や、う、め、れ、ど、ま、り、あ、の、づ、ら、一、の、門、を、こ
て、ん、と、す、る、と、せ、傳、り、て、い、ま、あ、く、そ、と、あ、い、で、る、事、に、い、か、
り、て、ら、き、こ、う、事、た、き、う、も、傳、ら、ね、ば、ん、と、こ、う、い、ら、か、う、て

見ればそのとそづより又あつたるあやまりをうけて
車も降りたりさればそんれいもあつたかきよとては
こゝに信ずるにそのゆるなれどこの偽字づひの車は古
を考へいへるんれ考へそんもて来ぬるがごとくわり
てうごく信ずりしおほぼえゆるなれこゝよゆるうたう
古ていとまがきもれなつん降りけふかの新井花後守れ
船長の未種なぞいふかゝるまゝいふと考へれりといふ
そのよゆれど古の偽字れ車よわきまなかりしゆゑよ
をりいふをてそまきひがごとく見えゆるよ好んごも
すぶれたりし人すゝるにいとくそはさうをゆり
けれまうて世のあれ人のこゝよくらからんをやい
れば偽字のこゝわりしりあゆりし車はれ古を考へ
いふんこゝのけきんちちいといひゆりはづや

享和元年八月廿一日

平甚海

偽字大正抄畢

此書は偽字の考へるに
どこのりしりあゆりし人すゝるにいとくそはさうをゆり
けれまうて世のあれ人のこゝよくらからんをやい
れば偽字のこゝわりしりあゆりし車はれ古を考へ
いふんこゝのけきんちちいといひゆりはづや

文化の如くせといふ年れふつきあしつあれ書の主人

附録一卷

音便假字例

荅鈴木長温書

右副刻

織錦齋蔵板

